

3年ぶりにフィリピン現地視察へ



コロナ禍が明け、KPAC スタッフもようやくフィリピンを訪れることができました。今回は、その時の様子に加え、今年度は現地へ赴くことが叶わなかったカンボジアへの支援の一つである 絵本英訳プロジェクトについて報告します。(写真=カンルンガン・サ・エルマ 共同生活所)

(フィリピン)

KPAC インフォメーションオフィス



▲ KPACIO スタッフと。一番左がハリエットさん

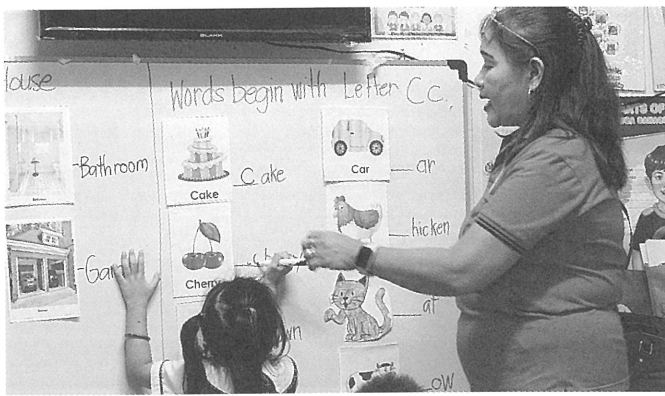
フィリピン到着翌日の朝。滞在先のホテルのロビーに、KPACIO の事務局長であるハリエットさんが迎えに来てくださった。とても明るく気さくな方で、初対面の私にも優しく接してくださった。共に車に乗り込み、まずは事務所へ。スタッフのジャックさん、ダフネさんが迎え入れてくれた。

KPACIO は、貧困地区内での保育所の運営に加え、KPAC 以外からの支援も募り、中高生の奨学生事業

や若者や保護者向けのセミナーの開催、地区内での食糧の配布や災害支援など、幅広く活動している。とても小さな事務所にも所狭しと支援物資や資料が置かれていた。

事務所では、新型コロナウイルス感染症の拡大により渡航できていなかった間の活動報告と、近年の懸念事項などを説明していただいた。コロナ禍と、ロシア・ウクライナ戦争の影響で、フィリピン国内のイスラム勢力・反イスラム勢力と政府との関係において緊張感が高まっている様子。KPACIO としては、子どもたちが気づかないうちに戦争や内戦に駆り出されないよう、戦争によって安易に「イスラム教が悪い」と判断することがないよう、そして将来自ら戦争を選ぶことのないよう願いながら、政府に訴えたり、平和的な話し合いができるよう地域で活動したりしていきたいとのことだった。

また、スラムに設立された保育所を3か所訪れた。このうちの1つ、CPCD には、現在3～4歳の子どもたち13人が通っており、教師2人と、園長のよ



▲CPCD での授業の様子

うな立場のスタッフが2人で運営している。この日は、家の中の部屋の名前を英語で習ったり、アルファベットの「C」で始まる単語を教わったりしている様子を見学した。日本の小学校のように一人ひとりに学習機があるわけではなく、4人で1つの机を囲み、先生の話を聞くときには体の向きを変えなければならなかったり、込み入った住宅や商店の並ぶ路地に面した扉を開けるとすぐに教室で、決して整った学習環境とは言えないが、子どもたちは喜んで学習に取り組んでいるように感じられた。

SRDコンコウキョウセンター

ここでは現在、3～5歳の子どもたち93人を教育している。就学前教育を行う幼稚園として国から認可されている。教員の研鑽や情報収集を欠かさず、去年は教員全員が早期幼児教育の資格を新たに取得した。

給食メニューの昼食と、フィリピンの一般的な軽食であるトロン（バナナを生地で包んで砂糖をまぶしながら揚げたもの）を頂きながら、職員の方々から、ここ数年の状況や、KPACへの要望などをうかがった。

昨年度、緊急救援として支援者の皆様にご協力いた

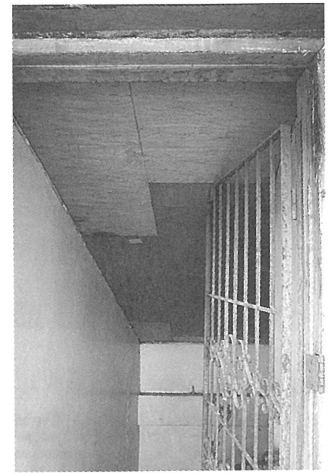


▲軽食のトロン

だき、SRDの建物修繕をおこなったが、建物のコンクリートにひびが入っており、大雨時の雨漏りは解消されていないとのこと。防水ペイントによる塗装を検討しているそうだ。

SRDで実施している教育里親事業では、現在奨学生22名を支援している。円安により支援金が目減

りすることに加え、コロナ禍やロシア・ウクライナ戦争の影響による物価高騰により、従来の支援額では教育にかかる諸々の費用がまかなえない場合も生じているとのこと。また、奨学生として好成績を維持している意欲ある子どもたちに、何かプレゼントができない



▲修理されたSRDの屋根

か、そのための資金がないだろうか、という相談があった。今後、KPACでも検討を進めていく。

また、昨年度、施設近隣で発生した火災の復興現場も見学した。緊急救援事業により購入したコンクリートブロックやトタン板などにより補修された、狭い家屋が密集していた。



▲火災復興現場の様子

カンランガン・サ・エルマ

都市部にある本部と併設されている共同生活所、オープンデイセンター、郊外にあるボーイズホームとガールズホームを訪れた。本部では、コロナ禍で直接会えなかった間のスタッフの様子をうかがった。オープンデイセンターでは、スタッフの方から、常にランガイ（一番小さな地方自治体の単位）と連携をとりつつ助けを必要としている子どもや家族に手を差し伸べられるようにしていること、時には緊急的な保護をすることもあることなどをうかがいながら、施設の紹介を受けた。共同生活所では、子どもたちがダンスで歓迎してくれた。名前と将来の夢を順に発表してくれて、和やかな場だったが、訴訟中の子もいるため写真撮影時もマスクは外さない

ように、とのことで、複雑な環境下にいることがうかがわれた。

離れた農村部にあるボーイズホームへは、車で2時間ほどかけて向かった。広い農園を案内してもらい、施設内部も見学した。子どもたちと触れ合う時間はほとんどとれなかったが、学校から帰ってきた子どもたちが最後は笑顔で見送ってくれた。

郊外のガールズホームでは、子どもたちがダンスで歓迎してくれた。私たちもダンスの輪に誘われて一緒に踊ったり、手をひいて施設内を案内してくれたり、とても人懐っこく、年長者が幼い子たちをリードしサポートしている様子も見られた。普段か



▲ガールズホームでの様子

らこの施設の支援をしている通訳の方とはとても打ち解けていて、帰り際は名残惜しそうにしていた。

●まとめ

全施設に共通することだが、日本で育った私から見ればとても充実しているとはいえない学習・生活環境において、どの子どもたちも、喜んで精一杯学習や日々の生活に取り組んでいるように感じられた。また、就学前のまだ幼い子どもたちが意欲的に学んでいる様子を見たり、SRD や KPACIO の奨学生が学業で好成績を収め、就職難といわれる年にも主に教職などしっかりとした職につき、施設のサポートをしてくれる卒業生もいるという話をきいたりして、現地のスタッフたちが地道に続けてきた支援の意義を大いに感じる事ができた。

各施設では、国内・海外問わず、施設を訪れるボランティアは大歓迎とのことだった。訪問時にも、大学生が研修に来ている様子が見られた。KPACとしても、来年度はスタディーツアーの復活を願っており、様々な形での支援を続けていきたい。

(報告者：小林邦事務局員)

(カンボジア) クメール平和の会 KPO

こんにちは。
絵本英訳プロジェクトです。

絵本英訳プロジェクトは、カンボジアの小学校に絵本をプレゼントしています。この活動は、内戦からの復興に取り組むカンボジアの、未来を担う子どもたちの学習のお手伝いをしたいとの願いで始められました。活動開始から30年を越え、その間に子どもたちに届けた絵本は、もうすぐ80タイトルになります。多くの皆さんから、サポートいただけていることに、御礼感謝いたします。

現在の絵本の寄贈先は、平和活動センターが支援をするコンポンチュナン州の小学校です。2020年のコロナウィルスの感染拡大によって、カンボジアでも、子どもたちの通う小学校は長期間にわたって休校になりました。その間、オンラインによる学習に取り組まれましたが、インターネット環境が整っていない地域や、通信機器のない家庭の子どもたち



▲日本からの絵本を手にする子どもたち

など、学習環境の格差が問題になり、コンポンチュナンの子どもたちも、同様の問題を抱えていました。そんな中に、教師が家庭を訪問して宿題を届けて、自習を促す取り組みや、少人数制での授業を行うなど、子どもたちが勉強できる環境作りのための熱心な取り組みがなされていました。現在は、感染予防に気をつけながらも、子どもたちは通常通り通学できるようになっています。

コロナウィルスの流行で、絵本英訳プロジェクト



▲図書室で勉強する子どもたち

も、2020年は活動を休止しましたが、2021年以降、オンラインでの作業に切り替えて、毎月ミーティングを開催し、絵本10タイトルの翻訳を完了しました。それらの絵本は、英語を母国語とする協力者に翻訳チェックをしてもらう予定です。

オンライン会議になったことで、近隣のスタッフだけでなく、他府県および海外からもスタッフが会議に参加してくれるようになりました。思いがけな

い活動協力の輪が広がったことは、ありがたいことでした。

これからも、活動への皆さまのご理解とご協力がいただけましたら、うれしく思います。どうぞよろしくお願いいたします。(報告者：宮下寿美理事)

《ボランティアスタッフ募集!》

次の二通りの参加方法があります。

- ①絵本を購入し、英訳文を添えてお送りください。(絵本は、現在市販されているものにしてください)
- ②月1回の英訳検討会議にご参加ください。(オンライン会議となります。)

○問い合わせ先

絵本英訳プロジェクト代表 宮下寿美
〒547-0046 大阪市平野区平野宮町2-7-24
金光教平野教会内 TEL 06-6791-0230
kpn_picturebook@hotmail.com

Topics トピックス

● Web ページをリニューアル

10月1日、K PACのWebページをリニューアル公開した。今後はこれまでよりも一層現地の様子を支援者の皆様にお届けできるよう、有意義に活用していきたい。



QRコード

●世界平和を祈るつどい

12月10日、修徳殿講堂にて、金光教非戦・平和ネットと共催してきた「世界平和を祈るつどい」が4年ぶりにご霊地に集う形式で開催された。「戦争から平和は生まれぬ。平和を生み出す祈りを共に。」というテーマで、佐藤元信師による講演が行われた。

お知らせとお願い

硬貨による募金について

近年、金融機関における硬貨取扱手数料の導入・値上げが相次いでおります。K PACにおいても、この度、銀行への硬貨の入金時に、硬貨1,000枚あたり660円の手数料がかかることになりました。1円玉1,000枚のご寄付があったとすると、7割近くが手数料として差し引かれてしまうこととなります。皆様からの善意を少しでも多く現地の子どもたちに届けるために、できる限り少額硬貨は50円玉、100円玉、500円玉や紙幣にまとめていただき、もしくは郵便振替によるご支援をいただきますよう、ご協力の程よろしくお願いいたします。

SRD 教育里親の募集

K PACでは、フィリピンのSRD コンコウキョウセンターで実施している教育里親制度の新たな里親様を随時募集しております。10年間1万円の支援金で、複数の里親様で1人の奨学生の教育資金の一部を補助しています。基本的に、支援する奨学生が最終学歴を卒業するまで継続してご支援いただくようお願いしております。お申込みやお問い合わせはお気軽に事務所までご連絡ください。下記ホームページのお問い合わせフォームもご利用いただけます。

金光教平和活動センター

Q検索

K PAC ホームページ <https://www.kpac.konkokyo.jp/>

※一食をささげるチャリティー献金へのご協力を※

金光教平和活動センターが支援する各団体は、新型コロナウイルス感染症が下火になった今も、物価の高騰などにより厳しい状況が続いております。子どもたちの教育の機会が失われることがないよう、いっそうのご協力をお願いいたします。

【郵便振替】 口座記号番号 01280-9-10799 加入者名 特定非営利活動法人 金光教平和活動センター